



資産運用 保険 年金

# 月次運用実績レポート

## 2016年10月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株式型Ⅱ	シュローダー日本株式オープンVA (適格機関投資家専用)	シュローダー・インベストメント・ マネジメント株式会社
日本中小型株式型Ⅱ	アムンディ・ターゲット・ジャパン・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	アムンディ・ジャパン株式会社
海外株式型Ⅱ	PRU海外株式マーケット・ パフォーマンス	ブルデンシャル・インベストメント・ マネジメント・ジャパン株式会社
海外債券型Ⅱ	インデックスファンド海外債券 (ヘッジなし)1年決算型	日興アセットマネジメント株式会社
ハイブリッド・バランス型Ⅱ	ユナイテッド・マルチ・マネージャー・ ファンド1『フルーツ王国』	日本アジア・アセット・ マネジメント株式会社
世界分散型Ⅱ	大和住銀世界資産バランスVA (適格機関投資家限定)	大和住銀投信投資顧問株式会社
マネープール型Ⅱ	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3  
TEL 0120-933-399  
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

<募集代理店>  
株式会社 荘内銀行



# 日本株式型Ⅱ

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標になります。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
日本株式型Ⅱ	4.94%	4.78%	3.69%	▲9.33%	13.52%	8.51%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・その他	4.2%
預金・投資信託	95.8%
合計	100.0%

## 【参考】日本株式型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### シュロージャー日本株式オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:シュロージャー・インベストメント・マネジメント株式会社)

#### 騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
シュロージャー日本株式オープンVA	5.29%	5.23%	4.47%	▲8.60%	19.19%	58.41%
TOPIX	5.31%	5.31%	3.91%	▲10.60%	16.64%	51.24%

\* 設定日2002年9月30日

#### 株式銘柄上位10

(組入銘柄数90)

銘柄	ウェイト
KDDI	4.15%
三井住友フィナンシャルグループ	3.18%
オリックス	2.93%
ブリヂストン	2.80%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	2.75%
日本たばこ産業	2.67%
クボタ	2.67%
トヨタ自動車	2.65%
いすゞ自動車	2.58%
伊藤忠商事	2.44%

投信の純資産総額に対する実質比率

#### 株式業種別上位10

業種	ウェイト
情報・通信業	12.27%
電気機器	11.63%
輸送用機器	9.52%
医薬品	7.44%
銀行業	6.98%
機械	5.39%
小売業	5.31%
建設業	5.06%
卸売業	4.95%
陸運業	3.31%

投信の純資産総額に対する実質比率

#### 対TOPIXオーバーウェイト業種

業種	ウェイト	TOPIX
情報・通信業	12.27%	8.17%
ゴム製品	3.29%	0.93%
医薬品	7.44%	5.08%
建設業	5.06%	3.09%
その他金融業	2.93%	1.31%

投信の純資産総額に対する実質比率

#### 対TOPIXアンダーウェイト業種

業種	ウェイト	TOPIX
化学	2.86%	6.52%
食料品	2.67%	4.84%
電気・ガス業	0.00%	1.85%
不動産業	0.99%	2.59%
サービス業	2.26%	3.82%

投信の純資産総額に対する実質比率

## 〈運用コメント〉

10月はTOPIX(配当込)で+5.3%と上昇しましたが、11月の米大統領選を控え投資家は積極的な売買を見送ったため、10月の東証1部売買代金は1日平均で2兆円を下回る低調なものとなりました。月初に発表された米ISM非製造業景況感指数は約1年ぶりの高水準となり、円安の進行から外需株を中心に堅調な動きとなりました。13日に発表された9月の中国貿易収支が市場予想を下回る弱い数値となったことで一旦弱含む場面もありましたが、その後は堅調な原油相場を背景とした資源国への懸念後退や1ドル=105円台まで進んだ円安などから上昇基調で推移しました。ここも売り越しが継続していた海外投資家は、10月の3週目まで3週連続で買い越しとなり、TOPIXはおおよそ半年ぶりの高水準で引けました。今月は、投資家のリスク回避姿勢が弱まったことでリターンリバーサル動きが継続、ハイベータ株や財務レバレッジの高い銘柄がアウトパフォームしました。

東証33業種別騰落率では、上位5業種は証券・商品先物取引がトップとなり、水産・農林、保険、金属製品、海運が続きました。一方、下位5業種は、医薬品、サービス、鉄鋼、食料品、その他製品となりました。今月はディフェンシブ・内需関連セクターがアンダーパフォームしました。

足元で発表されている上期業績については、外需関連で前年比大幅減益となり、為替前提の見直しに伴い通期計画は下方修正となっているものの、株価は円高の悪影響について概ね織り込み済みの反応となっています。為替影響を除いた実態ベースの企業収益は堅調であることから、比較的底堅い相場展開を予想しますが、米大統領選の選挙結果次第でマーケットが大きく振れる可能性があります。また、株価バリュエーションについては、来期ベースのPERでは過去水準や欧米先進国との比較でやや割安とみられることから、下値のサポートとして機能するものと思われます。日本企業による自社株買いは昨年9年ぶりに過去最高を更新しており、企業における資本効率改善の取組みは今後更に加速することが期待されます。持合い株の解消や株主還元の積極化などがバランス改革の成果も相場の支援材料と見ています。

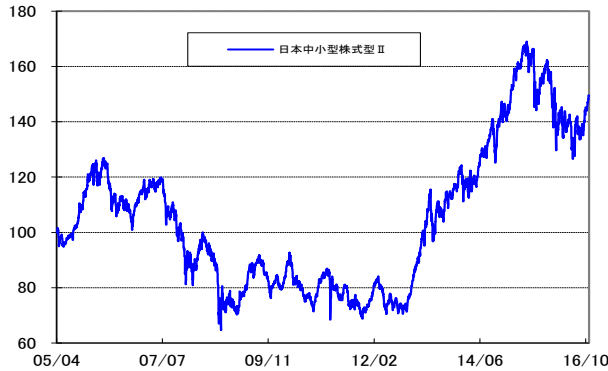
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

# 日本中小型株式型Ⅱ

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる中小型企業の国内株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることが目標となります。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
日本中小型株式型Ⅱ	4.93%	5.25%	7.46%	▲4.33%	31.94%	49.46%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2%
投資信託	95.8%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

## 【参考】日本中小型株式型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンドVA(適格機関投資家専用) (運用会社:アムンディ・ジャパン株式会社)

#### 騰落率

(2016年10月31日現在)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンドVA	5.30%	5.92%	8.71%	▲3.39%	40.65%	102.23%
TOPIX(※)	5.31%	5.31%	3.91%	▲10.60%	16.64%	18.70%

※ TOPIXは当ファンドのベンチマークではありません。  
また、パフォーマンス評価の基準となるものでもありません。  
騰落率は、設定日の前日を基準として計算しております。

\* 設定日は2004年7月2日

#### 組入上位10業種

業種	比率	業種	比率
1 電気機器	19.0%	6 情報・通信業	6.4%
2 建設業	13.3%	7 輸送用機器	4.5%
3 機械	9.1%	8 卸売業	4.2%
4 金属製品	8.2%	9 その他製品	3.3%
5 化学	6.8%	10 繊維製品	3.1%

◇ 表中の比率は、マザーファンドの純資産総額に対する比率。  
◇ 業種は、東証33業種分類による。

#### 株式組入上位10銘柄

(組入銘柄数:89)

順位	銘柄	市場	業種	比率	コメント
1	セイノーホールディングス	東証一部	陸運業	2.6%	路線トラック大手。2016年7月から9月に154万株(発行済み株式総数の0.75%)の自社株を買戻し。
2	ローム	東証一部	電気機器	2.5%	電子部品メーカー。2016年5月31日に220万株(発行済み株式総数の1.94%)の自己株式を消却。
3	天馬	東証一部	化学	2.5%	樹脂成形品大手。2016年5月27日に100万株(発行済み株式総数の3.47%)の自己株式を消却。
4	トッパン・フォームズ	東証一部	その他製品	2.4%	ビジネスフォーム首位。業績は安定しており株主還元への向上に期待。
5	EIZO	東証一部	電気機器	2.2%	モニターメーカー。2017年3月期で4期連続の増配計画。
6	キッセイ薬品工業	東証一部	医薬品	2.1%	中堅医薬品メーカー。2017年3月期で9期連続の増配計画。
7	応用地質	東証一部	サービス業	2.0%	地質調査国内トップ。2016年2月に320万株(発行済み株式総数の9.97%)の自己株消却を実施。
8	K&Oエナジーグループ	東証一部	鉱業	2.0%	千葉県産の天然ガスを生産。時価総額並の現預金・有価証券を保有。
9	アイネス	東証一部	情報・通信業	1.9%	システムインテグレーター。2016年7月に2015年6月以降、6度目の自社株買いを発表。
10	三機工業	東証一部	建設業	1.9%	空調設備工事の大手。2016年3月期で2期連続増配。

◇ 上記の比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率。

◇ 組入銘柄数は、マザーファンドが組み入れている株式の銘柄数。

◇ 業種は、東証33業種分類による。

#### 市場別構成比

市場区分	比率
東証一部	81.9%
東証二部	8.0%
JASDAQ	4.0%
その他市場	0.9%
現金・その他	5.3%

#### <運用コメント>

当月の株式市場は、米国の経済指標の改善や円安の進行、原油高などで上昇基調で推移する中、当ファンドの収益率もプラスを確保しました。個別銘柄でプラスに貢献した主な銘柄は、EIZO、天馬、セイノーホールディングスです。医療用や産業用を得意とするモニターメーカーのEIZOは、2016年度の営業利益が前年比2.5倍となり、業績の拡大期待で株価は大幅に上昇しました。プラスチック成形の天馬は、2016年度の営業利益が原油安による原価改善で増益となりましたが、市場の期待値に届かず株価は下落して9月末のPBR(株価純資産倍率)は0.55倍に調整、当月の株価は割安度に着目した見直し買いで反転しました。路線トラック最大手のセイノーホールディングスも9月末のPBRが0.58倍と割安度が高く、適正運賃の定着で2017年3月期の営業利益は8期連続の増配計画であることから、当月の株価は堅調な展開となりました。一方、マイナスに寄与した主な銘柄は、アイコム、東京エネシスです。無線機器専門のアイコムは、円高の進行と資源国での需要減を主因に2017年3月期の営業利益を期初計画の25億円から7.5億円に下方修正、同時に配当も36円計画から20円に引下げて株価は下落しました。保有する現預金と有価証券は時価総額以上と割安度が高く、無線機のデジタル化の流れは中期的に同社の業績にプラスと判断され、保有を継続しています。発電所の工事や保守の東京エネシスは、10月16日に東京電力柏崎刈羽原発がある新潟県知事選が行われ、原発再稼働に慎重な知事が当選したため、当月の株価は冴えない動きとなりました。しかし、原子炉の廃炉でも同社の技術が活かされることから、今後の進展が期待されます。また、2016年3月期から機関投資家向け説明会を再開するなどIR姿勢の向上も評価しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

# 海外株式型Ⅱ

日本を除く世界各国の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することによって、MSCI KOKUSAI インデックス (円換算ベース) に連動した投資成果をあげることを目標とします。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
海外株式型Ⅱ	1.78%	▲1.35%	▲4.15%	▲13.54%	10.05%	38.10%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・その他	4.5%
預金・投資信託	95.5%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

## 【参考】海外株式型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### PRU海外株式マーケット・パフォーマー

(運用会社: プルデンシャル・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社)

#### 騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
PRU海外株式マーケット・パフォーマー	1.98%	▲1.04%	▲3.51%	▲12.73%	16.22%	64.11%
MSCI KOKUSAI インデックス (円換算ベース)	1.90%	▲0.75%	▲3.59%	▲12.52%	18.53%	85.31%

※「MSCI KOKUSAI インデックス」とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国で構成されています。また、MSCI KOKUSAI インデックスに対する著作権及びその他知的財産権は、全てMSCI Inc. に帰属します。MSCIでは、かかるデータに基づく投資による損失に一切責任を負いません。

\* 設定日2001年3月1日

#### 株式国別上位10

国名	ウェイト
アメリカ	59.6%
イギリス	7.0%
カナダ	3.9%
スイス	3.8%
フランス	3.7%
ドイツ	3.6%
オーストラリア	2.8%
オランダ	1.7%
アイルランド	1.6%
スペイン	1.2%

※ベビーファンド純資産総額に対する実質組入れ比率

#### 株式業種別上位10

業種	ウェイト
ソフトウェア・サービス	9.1%
医薬品・バイオテクノ・ライフ	8.5%
銀行	8.5%
エネルギー	7.2%
資本財	6.8%
食品・飲料・タバコ	6.0%
素材	4.7%
各種金融	3.9%
保険	3.9%
小売	3.8%

※ベビーファンド純資産総額に対する実質組入れ比率

#### 株式銘柄上位10

(組入銘柄数1,305)

銘柄	ウェイト
APPLE INC	2.0%
MICROSOFT CORP	1.5%
EXXON MOBIL CORP	1.1%
JOHNSON & JOHNSON	1.0%
AMAZON.COM INC	1.0%
FACEBOOK INC-A	1.0%
GENERAL ELECTRIC CO.	0.9%
JPMORGAN CHASE & CO	0.8%
ALPHABET INC-CL A	0.8%
ALPHABET INC-CL C	0.8%

※ベビーファンド純資産総額に対する実質組入れ比率

## <運用コメント>

米国金利上昇に伴うドル高ユーロ安の影響で、米国株式市場は小幅下落、欧州株式市場は小幅上昇となりました。米国株式市場は、マクロ経済指標は堅調だったものの年内の利上げ観測が強まり、下落基調で始まり、月半ばからは主要企業の7-9月期決算発表が始まり、決算内容に一喜一憂する動きとなりましたが、中国貿易統計や原油価格が冴えなかったことが株価を抑えました。月末にかけては、11月8日の米大統領選を控え結果確定まで動きにくい展開の中、テクノロジーセクターの一部などで失望決算が相次ぎ、軟調な展開が続きました。欧州株式市場は、ドイツ銀行の経営に対する過度な不安が後退し、上昇して始まり、その後、米国株式市場の下落を受けて、調整する局面もありましたが、中国の経済に対する懸念が和らいだことや対ドルでユーロ安が進行したこともあり、反発に転じました。NYダウは18,142.42ドルで終了し0.91%の下落、ナスダックは2.31%の下落、SP500は1.94%の下落となりました。欧州株式については、ドイツDAX指数は10,665.01で終了し1.47%の上昇、フランスCAC指数は4,509.26で終了し1.37%の上昇、イギリスFT100指数は6,954.22で終了し0.80%の上昇となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

# 海外債券型Ⅱ

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、シティ世界国債インデックス(除く日本/円ヘッジなし・円ベース)に連動した投資成果をあげることを目標とします。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
海外債券型Ⅱ	▲0.03%	▲2.91%	▲6.29%	▲13.05%	▲0.69%	9.48%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.8%
投資信託	95.2%
合計	100.0%

## 【参考】海外債券型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### インデックスファンド海外債券(ヘッジなし)1年決算型 (運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

#### ファンド(分配金再投資)とベンチマークの収益率

	3ヵ月間	6ヵ月間	1年間	3年間	設定来
ファンド収益率(分配金再投資)	▲2.62%	▲5.81%	▲12.17%	1.39%	3.68%
ベンチマーク収益率	▲2.60%	▲5.63%	▲11.58%	1.97%	4.51%
差異	▲0.02%	▲0.18%	▲0.59%	▲0.58%	▲0.82%

\* 設定日2001年10月17日

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。  
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。  
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。  
 ※上記表およびグラフ使用のベンチマークは、前日(土、日等を除く)のドルベースインデックスを当日のファンドで採用しているレートで円換算しており、投資信託の基準価額算出方式に合わせています。

#### 公社債残存別構成比

残存期間	ウェイト
1年未満	0.98%
1~3年	25.21%
3~7年	33.49%
7~10年	12.62%
10年以上	26.67%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

#### 公社債組入上位10銘柄(組入銘柄数649銘柄)

	銘柄名	ウェイト	通貨	残存年数
1	US TREASURY N/B	8%	アメリカドル	5.04年
2	US TREASURY N/B	3.625%	アメリカドル	3.29年
3	US TREASURY N/B	3.375%	アメリカドル	3.04年
4	US TREASURY N/B	3.75%	アメリカドル	2.04年
5	US TREASURY N/B	8.75%	アメリカドル	3.79年
6	US TREASURY N/B	2%	アメリカドル	6.30年
7	US TREASURY N/B	3.5%	アメリカドル	3.54年
8	US TREASURY N/B	3.625%	アメリカドル	4.30年
9	US TREASURY N/B	4%	アメリカドル	1.79年
10	US TREASURY N/B	1.5%	アメリカドル	2.17年

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

#### 公社債通貨構成比

	通貨	ウェイト
1	アメリカドル	43.36%
2	ユーロ	40.19%
3	イギリスポンド	6.92%
4	カナダドル	2.03%
5	オーストラリアドル	1.99%
	その他	4.49%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

## <運用コメント>

### <運用目標>

「海外債券インデックス(ヘッジなし)マザーファンド」への投資を通じて、世界の主要国の債券市場の動きをとらえることを目標に、シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)の動きに連動する投資成果をめざします。

### <海外債券・為替市況>

10月の米国10年国債利回りは、前月末比で上昇(債券価格は下落)しました。上旬から中旬にかけては、市場の予想を下回るコアインフレ率を受けて利回りが低下(債券価格は上昇)する局面があったものの、概して堅調な内容の経済指標の発表や米国金融当局者による景気に対する強気の見方などを背景に米国連邦準備制度理事会(FRB)による年内の利上げ期待が強まったことから、利回りは上昇しました。下旬は、市場の予想を上回る景況感の改善が見られた経済指標の発表などを受けて、利回りは上昇しました。10月の欧州債券市場では、上旬に欧州中央銀行(ECB)が金融緩和策を縮小する可能性があるとの観測が強まったことや、ユーロ圏インフレ率が市場の予想を上回って上昇したこと、英国においてイギリスポンド安によるインフレ懸念が強まったことを背景にイングランド銀行(BOE)の追加緩和が難しくなるとの見方などから、ドイツ、フランス、英国の10年国債利回りは前月末比で上昇(債券価格は下落)しました。また、イタリア、スペインの10年国債利回りも、前月末比で上昇しました。

10月の円/アメリカドル相場は、前月末と比べて円安/アメリカドル高となりました。上旬から中旬にかけては、概して堅調な内容の経済指標の発表や米国金融当局者による景気に対する強気の見方などを背景に米国連邦準備制度理事会(FRB)による年内の利上げ期待が強まったことから、円安/アメリカドル高となりました。下旬は、米国債利回りが上昇したことや米国大統領選挙における政治面での不透明感が後退したことなどを受けて、円安/アメリカドル高となりました。10月の円/ユーロ相場は、前月末と比べて円安/ユーロ高となりました。上旬は、米国連邦準備制度理事会(FRB)による年内の利上げ期待が強まったことなどが円安要因となったことから、円安/ユーロ高となりました。中旬から下旬にかけては、欧州中央銀行(ECB)による金融緩和策が継続されるとの期待が高まったことなどがユーロ安要因となったことから、円高/ユーロ安となりました。

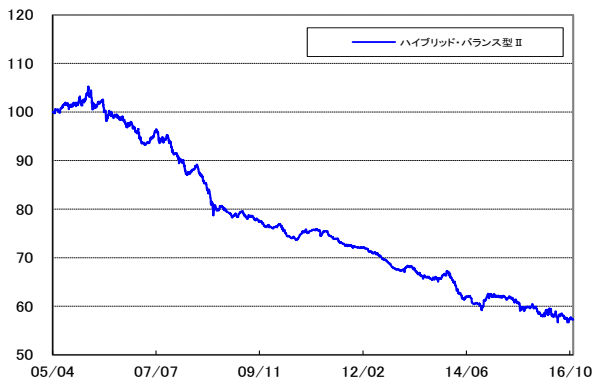
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

# ハイブリッド・バランス型Ⅱ

6ヶ月物譲渡性預金利率を参考ベンチマークとし、投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式、債券および為替取引等ならびにこれらに関連する派生商品(先物取引およびオプション取引等)に積極的に分散投資を行うことにより、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ハイブリッド・バランス型Ⅱ	▲0.16%	▲2.26%	▲3.24%	▲4.45%	▲12.69%	▲42.77%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.3%
投資信託	95.7%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに「100」として指数化したものです。

## 【参考】ハイブリッド・バランス型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### ユナイテッド・マルチ・マネージャー・ファンド1(愛称:フルーツ王国) (運用会社:日本アジア・アセット・マネジメント株式会社)

#### ファンドの騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
基準価額	▲0.03%	▲2.01%	▲2.61%	▲3.13%	▲9.22%	▲25.52%

\* 設定日2001年3月12日

#### ファンドの内訳

戦略別	組入れ比率
アルファ戦略	39.7%
ベータ戦略	58.1%
キャッシュ代替	1.1%
現金等	1.1%
合計	100.0%

## <運用コメント>

当ファンドの10月の騰落率は▲0.03%となりました。ファンドへの戦略別の寄与は、アルファ戦略が+25.6円、ベータ戦略が▲14.5円となりました。当月は、原油価格の動向や主要国の長期金利の動向等がグローバル資産市場に影響しました。当月の米国主要株価指数は、前半、FOMC(連邦公開市場委員会)メンバーによるタカ派発言を受けて早期の利上げ観測が台頭したこと等から下落しました。後半、大型のM&A(企業の合併・買収)の発表等を受けて、上昇する場面はあったものの、世界的に長期金利が上昇したこと等が市場を押し下げ、米国株式は月間で下落しました。欧州株式市場は、原油価格の上昇やECB(欧州中央銀行)による金融緩和策の現状維持が確認されたこと等から上昇する場面はあったものの、依然として、欧州大陸の一部銀行の経営を巡る状況が小康状態であることや、世界的な長期金利上昇の流れ等が重石となり、軟調な展開となりました。日本株式市場は、原油高等によりリスク選好の動きが広がったことに加え、米利上げ観測の高まりによる円安・ドル高を背景として輸出株中心に上昇しました。外国為替市場では、原油高によってインフレ期待が喚起されたことや米経済の改善を示す経済指標の発表が相次いだこと等を背景に米長期金利が上昇したことなどから、円安・ドル高となりました。また、ユーロも、円安・ドル高の動きが波及したこと等から円安・ユーロ高となりました。

#### ●アルファ戦略

当月は、「スーパーサイクル・シングルアルファ」、「アカディアン日本株式シングルアルファ」はともにプラス寄与となり、アルファ戦略合計でプラスリターンとなりました。

#### ●ベータ戦略

「Qbasis All Trends UCITS Fund - Class EI JPY」、「ETFグローバル・バランス」はともにマイナス寄与となり、ベータ戦略合計でマイナスリターンとなりました。

引続き組入ファンドのパフォーマンスおよびリスクを注視し、必要に応じて各ファンドの組入比率や戦略の配分比率を変更することによりファンド全体のリターン改善を目指します。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

# 世界分散型Ⅱ

世界各国の株式、公社債および日本を除く世界各国の不動産投資信託(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することによって、中長期的に高い投資成果をあげることがを目標とします。基本資産配分は、国内株式20%、外国株式30%、国内債券10%、外国債券30%、不動産投資信託(REIT)10%としますが、市況の見直しに応じて機動的な変更を行うことがあります。市況動向等を勘案して為替ヘッジを行うことがあります。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界分散型Ⅱ	0.93%	▲0.72%	▲2.33%	▲10.87%	12.41%	15.15%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2%
投資信託	95.8%
合計	100.0%

## 【参考】世界分散型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### 大和住銀世界資産バランスVA(適格機関投資家限定) (運用会社:大和住銀投資信託顧問株式会社)

#### ファンドの騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
大和住銀世界資産バランスVA	1.06%	▲0.41%	▲1.51%	▲9.75%	17.77%
参考指数	1.11%	▲0.95%	▲2.39%	▲9.29%	17.66%

※ファンド収益率(分配金再投資)とは、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金で当ファンドを購入(再投資)した場合の収益率です。  
※ファンドの組入比率は各マザーファンドにおける実質組入比率(純資産総額対比)です。

#### 年金日本株式マザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	5.02%	5.76%	4.01%	▲10.45%	21.39%
ベンチマーク収益率	5.31%	6.25%	5.00%	▲8.59%	24.00%

(注)ベンチマークは東証株価指数(TOPIX、配当込) 設定日2001年5月28日

#### 年金日本債券マザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	▲0.26%	▲1.09%	▲0.26%	5.48%	11.30%
ベンチマーク収益率	▲0.27%	▲1.23%	▲0.47%	4.85%	9.36%

(注)ベンチマークはNOMURA-BPI総合指数 設定日2001年5月28日

#### 海外REITマザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	▲5.05%	▲11.05%	▲9.37%	▲15.59%	25.24%
ベンチマーク収益率	▲4.68%	▲10.59%	▲7.22%	▲11.95%	31.09%

(注)ベンチマークはS&P先進国REITインデックス(除く日本、配当込、円換算) 設定日2007年2月20日

#### 株式組入上位10業種

業種名	ファンドの組入比率
情報・通信業	13.22%
電気機器	11.23%
輸送用機器	10.26%
銀行業	9.04%
建設業	6.65%
化学	6.42%
卸売業	5.51%
小売業	4.72%
食料品	4.62%
医薬品	3.28%

#### 株式組入上位10銘柄(組入銘柄数 104)

銘柄名	ファンドの組入比率
三菱UFJフィナンシャルグループ	5.50%
日本電信電話	4.45%
トヨタ自動車	3.90%
NIPPO	2.98%
みずほフィナンシャルグループ	2.53%
ダイセル	2.13%
マツダ	2.05%
村田製作所	2.01%
ソフトバンクグループ	2.00%
第一生命ホールディングス	1.91%

#### 公社債別構成比

種別	ファンドの組入比率
国債	71.10%
地方債	3.01%
政保債	2.15%
金融債	0.00%
事業債	20.76%
円建外債	0.00%
MBS	1.78%
ABS	0.00%

#### 公社債組入上位10銘柄(組入銘柄数 64)

銘柄名	ファンドの組入比率
126 5年国債	9.38%
115 20年国債	6.57%
22 30年国債	6.39%
328 10年国債	6.06%
158 20年国債	5.61%
329 10年国債	4.17%
128 5年国債	3.97%
133 20年国債	3.83%
334 10年国債	3.39%
369 2年国債	3.01%

#### 国別組入比率(上位5カ国)

国名	ファンドの組入比率
アメリカ	73.66%
オーストラリア	8.48%
フランス	6.25%
イギリス	4.14%
香港	2.01%

#### セクター別組入比率(上位5セクター)

業種	ファンドの組入比率
店舗用不動産投資信託	32.78%
オフィス不動産投資信託	12.06%
専門不動産投資信託	12.06%
各種不動産投資信託	10.62%
ヘルスケア不動産投資信託	10.32%

#### インターナショナル株式マザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	2.15%	1.78%	1.88%	▲8.40%	35.45%
ベンチマーク収益率	1.93%	▲0.63%	▲3.29%	▲11.97%	20.62%

(注)ベンチマークはMSCIコクサイインデックス(円換算) 設定日1999年7月30日

#### 株式組入上位10カ国

国名	ファンドの組入比率
アメリカ	58.08%
ケイマン諸島	5.24%
オランダ	5.10%
イギリス	5.03%
韓国	2.76%
イタリア	2.75%
アイルランド	2.58%
スウェーデン	2.25%
フランス	2.00%
スペイン	1.58%

#### 株式組入上位10銘柄(組入銘柄数 65)

銘柄名	ファンドの組入比率
NXP SEMICONDUCTORS NV	3.22%
APPLE INC	3.00%
COACH INC	2.97%
AMAZON.COM INC	2.68%
JUNIPER NETWORKS INC	2.66%
MORGAN STANLEY	2.62%
LIBERTY GLOBAL PLC-SERIES C	2.24%
ALPHABET INC-CL A	2.19%
MASTERCARD INC-CLASS A	2.18%
PRICELINE GROUP INC/THE	2.17%

#### インターナショナル債券マザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	0.32%	▲2.11%	▲5.05%	▲10.91%	7.92%
ベンチマーク収益率	▲0.12%	▲2.60%	▲5.63%	▲11.58%	6.03%

(注)ベンチマークはシティ世界国債インデックス(除く日本、円換算) 設定日2001年2月23日

#### 公社債組入上位通貨

通貨	ファンドの組入比率
米ドル	36.26%
ユーロ	34.37%
英ポンド	5.70%
メキシコペソ	4.03%
スウェーデンクローナ	2.95%

#### 公社債組入上位10銘柄(組入銘柄数 124)

銘柄名	ファンドの組入比率
US TREASURY N/B 1.375 01/31/21	8.95%
US TREASURY N/B 1.5 02/28/23	6.38%
US TREASURY N/B 2.75 02/15/19	3.22%
US TREASURY N/B 2.5 02/15/25	2.96%
US TREASURY N/B 1.875 05/31/22	2.83%
US TREASURY N/B 3.375 05/15/44	2.58%
US TREASURY N/B 1.5 02/15/45	2.37%
MEX BONOS DESARR FIX RT 6.5 06/09/22	2.10%
FRANCE OAT. 4 10/25/38	1.96%
UK GILT 3.5 01/22/45	1.92%

## 運用コメント

【年金日本株式マザーファンド】国内株式市場は、TOPIX(配当込み)は前月末比+5.31%と上昇しました。月初は米国での利上げ観測や良好な経済指標などから円安・株高の動きとなりました。月半ばには海外株式市場の下落から相場は弱含む局面も見られましたが、米ドル高が進む中、国内企業業績の底打ちへの期待や他国の株式市場対比での遅れ感を受けた海外投資家からの資金流入、日銀によるETF(上場投資信託)の買入れ加速への期待などを受けて、月末まで相場の上昇が継続しました。

ファンドの運用実績は、前月末比+5.02%とベンチマークであるTOPIX(配当込み)を▲0.29%アンダーパフォーマンスしました。連結予想PERが市場対比で割安水準です。業種では、情報・通信業や建設業などをオーバーウェイトし、サービス業や医薬品などをアンダーウェイトしました。個別銘柄では、今後は内需業種より外需業種の魅力が相対的にあると判断し、NTTDコマやセゾン・アイ・ホールディングスを売却した一方、半導体のシリコンウェハの値上げが期待される信越化学工業や商品市況の底打ち期待から住友商事などを購入しました。

国内景気は引き続き好況ですが、米国の景気は好調に推移すると見えています。為替相場に関しては、米国の将来の利上げにより、緩やかな米ドル高になる可能性が高まると見えています。スウェーデンシブコードやヨーロッパガバナンスコードの議論の高まりにより、企業の意識改革が見込まれ、個社ベースで大きな変化が期待できる銘柄を調査、検討しています。リスク要因としては、米大統領選や、新興国の経済動向が挙げられます。

【年金日本債券マザーファンド】国内債券市場は、日銀の新政策によりボラティリティ(価格変動性)が低下し、狭いレンジ内でも合う展開となりました。月前半は、ECB(欧州中央銀行)によるテーパリング(量的緩和策の縮小)観測や、原油価格の上昇などを背景に相場は軟調に推移しました。その後、順調な結果となった30年債の入れ込みなど引き続き旺盛な投資家需要を背景に相場は持ち直し局面も見られたものの、月後半には、欧州および米国での良好な経済指標や、黒田日銀総裁の超長期金利上昇容認を示唆した発言を背景に債券相場は再び下落しました。10年国債利回りはマイナス0.05%で持ち直しましたが、国内一般債市場は、2016年度の中間決算発表を控えて起債が減少したことから、国債対比の利回りスプレッドは安定的に推移しました。

当ファンドでは、日銀の新政策によるボラティリティ低下を見込み、ロールダウン効果の大きい20年ゾーンのオーバーウェイトを維持し、さらに下旬にポジションを積み増しました。クレジット戦略では、事業債で長期化の入替えを行い、ポートフォリオ利回りの引き上げを図りました。ファンドの運用実績は、前月末比▲0.26%とベンチマークであるNOMURA-BPI総合指数を+0.01%アウトパフォーマンスしました。

【インターナショナル株式マザーファンド】当ファンドは前月末比+2.15%となり、ベンチマークであるMSCIコクサイインデックス(円換算)に対して+0.21%アウトパフォーマンスしました。ベンチマークに対し、通貨配分効果、国別配分効果がプラスに寄与した一方、銘柄選択効果、業種配分効果がマイナスに作用しました。

【インターナショナル債券マザーファンド】当ファンドは前月末比+0.32%となり、ベンチマークであるシティ世界国債インデックス(除く日本、円換算)を+0.45%アウトパフォーマンスしました。

<債券>  
ユーロ圏のアンダーウェイト幅を増やし、英国を新たにアンダーウェイトしました。また、オーストラリアを新たにオーバーウェイトしました。さらに、ハンガリーを新たにオーバーウェイトとし、ルーマニアのオーバーウェイト幅を引き上げた一方、南アフリカのオーバーウェイトを解消しました。

<通貨>  
米ドルのアンダーウェイトを減らし、英ポンドをアンダーウェイトから中立としました。スウェーデンクローナはオーバーウェイトから中立としました。また、メキシコペソのオーバーウェイト幅を減らし、ロシアルーブルを新たにオーバーウェイトとしました。南アフリカランドはオーバーウェイトから中立としました。

【海外REITマザーファンド】10月のグローバルリート市場は下落しました。地域別では、欧州、米国の下落が目立ち、アジア・太平洋地域もオーストラリアが大きく下落するなど軟調に推移しました。オーストラリアは、世界的な金利上昇の悪影響を受けたことなどから大きく下落しました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

# マネープール型Ⅱ

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目標とします。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
マネープール型Ⅱ	▲0.14%	▲0.40%	▲0.81%	▲1.55%	▲9.98%	▲40.81%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	9.9%
投資信託	90.1%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

※2014年4月17日、「ハイブリッド株式型Ⅱ」は廃止となり、「ハイブリッド株式型Ⅱ」の特別勘定資産は当特別勘定に移転されました。

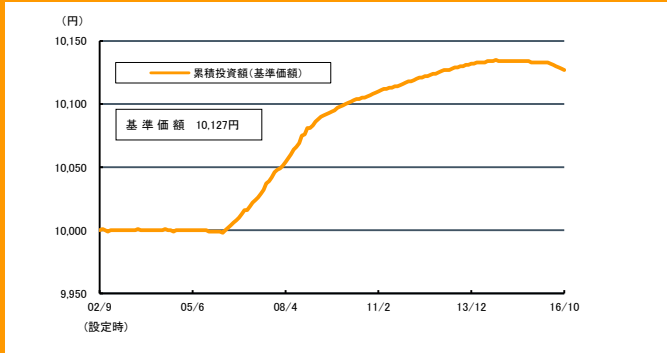
ユニット・プライスと特別勘定資産内訳は、4月17日までは「ハイブリッド株式型Ⅱ」、4月18日以降は、当特別勘定の数値を表示しています。

## 【参考】マネープール型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、(運用会社:フィデリティ投信株式会社)安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

#### 設定来の運用実績 (2016年10月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。  
 ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。  
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。  
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。  
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額 95.4 億円 (2016年10月31日現在)

商品概要	
形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

#### 累積リターン (2016年10月31日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	▲0.01%	▲0.03%	▲0.06%	▲0.06%	▲0.04%	1.27%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円
第14期(2015.11.30)	0円

#### ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース) (2016年9月30日現在)

##### <資産別組入状況>

債券	-
CP	-
CD	-
現金・その他	100.0%

##### <組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	-
	A	-
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		100.0%

平均残存日数	-
平均残存年数	-

(対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「プラス/マイナス」の符号は省略しています。  
 なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

#### 組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース) (2016年9月30日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数: 0)

上位10銘柄合計 0.0%

(対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。



